

初任者としての1年を振り返って

秩父市立高篠小学校 教諭 石川千尋

1 はじめに

中学生の時からの夢である教師になり、1年が過ぎようとしています。初めての社会人、初めての担任で4月のころは不安と緊張で押しつぶされそうになりましたが、先生方や子どもたち、たくさんの仲間を支えられてここまでくることができました。たくさんの経験をし、今までにはない充実した1年を過ごすことができました。

2 教科指導

教科指導では、どのようにしたら児童にわかりやすく伝わるかを考えながら授業を行いました。しかし、実際にやってみるとうまくいかないことの方が多く、反省の日々でした。教科指導をしっかりと行うためには学習規律を徹底することが大切だと思い、試行錯誤を繰り返しながら指導をしてきました。

また、お忙しい中、たくさんの先生方に示範授業を見せていただきました。授業の展開の仕方や工夫など、多くのことを実際に見て学ぶことができたと同時に、子どもたちも楽しそうに授業に取り組んでいたのが印象に残り、このような授業ができるようになりたいと思いました。先生方を目標にし、これからも研修を積んでいきたいと思います。

3 学級経営

なかなか思い通りに行かず、悩んだことも多かったのが学級経営です。児童への関わりに対し、もっとより良い対応ができたのではないかと自分の中で常に反省がありました。その中で、児童との信頼関係を築くことや、教師自身が問題意識を持つことの重要性を学びました。児童との関わりを多く持ち、気持ちに寄り添うことによってあたたかい学級になることを実感できました。また、何がこの学級に足りないのかを教師が気付かなければ学級は良くなっていかないということを、たくさんの先生方のお話を聞く中で学ぶことができました。

4 おわりに

この1年間、本当にたくさんの経験をさせていただくことができました。悩むこともたくさんありましたが、校長先生をはじめ、たくさんの先生方から指導や助言、あたたかい言葉をかけていただいたおかげで1年間頑張ることができました。子どもたちからもパワーや笑顔をもらい、日々楽しい時間を過ごすことができました。経験することが自分の力になるということも実感することができました。これからもたくさんのことを経験し、学び続けて行きたいと思います。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立影森小学校 教諭 池田尚未

1 理屈ではなく感覚で

「理屈ではなく感覚で。」着任当初、学年主任の先生からいただいたお言葉です。この言葉を道標に歩み出した教員人生も早一年が経とうとしています。この影森小学校に着任してからの一年は、何もかもが新鮮で戸惑いや不安も沢山ありましたが、諸先生方のあたたかい支えのもと、本当に充実した日々を過ごすことが出来ました。

2 多くの方に支えられた一年間

右も左もわからず手探りでスタートした4月。担任として初めて子どもたちの前に立ったあの日を今でも鮮明に覚えています。自分の中にあった大きな不安をよそに、元気いっぱいの子どもたちとの息をつく間もない日々が幕を開けました。教育実習時の経験とはまるで違う担任の多忙さになかなか慣れず、子どもの宿題をきちんと見てあげられなかったり、学級全体に目が行き届かなかったりと毎日大反省の連続でした。次々起こる子ども同士のトラブルや毎時間の授業準備、めまぐるしい時間の中で、教師としての自分を見失い笑顔が消えていた時期もあったように思います。そんな私が、こうして今年目を無事終えられるのは、校長先生を初めとする影森小学校の先生方の励ましとご指導があったからこそです。学校という組織について一からご指導いただき、様々なフォローをしてくださった校長先生・教頭先生・教務の先生方、学級のことで悩む度に遅くまで相談にのってくださり、いつでも正しい方向に導いてくださった学年主任の先生、様々な面で手厚くご指導いただき、たくさん甘えさせてくださった影森小学校全ての先生方のもとに私の一年目はありました。このあたたかい環境の中だったからこそ、納得のいくまで悩み、試行錯誤し、そして何度も立ち上がることができたのだと思います。また、担任としての至らない点を毎週すみずみまでご指導してくださった拠点校指導教員の先生、施設研修の度に騒がしい私の学級をあたたかく見守ってくださった先生、そして、同期のつながりを結びつけ、とても楽しい研修で私たち初任者の視野を広げてくださった秩父市教育委員会の先生方、今こうして振り返る道は、たくさんの方々へ導き支えられ歩いてきた道でした。

3 新たな一歩へ

今、改めて教室を見渡すと、私と子どもたちが共に歩んできた数々の軌跡があります。知らず知らずのうちに成長していく子どもたちを前に、彼らの持つ無限の力に触れ、刺激され、強く突き動かされて過ごしてきた一年を、子どもたちの笑顔と無邪気さに何度となく救われ、そしてそこに大きなやりがいを感じながら過ごしたこの一年を、未来における私自身の原点として大切にしていきたいと思います。また、この一年間でたくさんの方々から学ばせていただいたことを糧に、謙虚な姿勢を忘れず、よりいっそうの研究と修養に励んでいきたいと思います。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立吉田小学校 教諭 清水貴行

1 はじめに

「できた！」子どもたちが目を輝かせて喜んでいる。その笑顔を見るのが私にとっても嬉しい瞬間であり、教師になって良かったと感じる瞬間です。その笑顔を見るために1年間、初任者研修で教科指導・生徒指導など学び、実践、反省を繰り返し、成功や失敗と悩むことが多くありましたが先生方・保護者・子どもたちに支えられて成長することができました。

2 1年間を終えて

この1年は機関研修や学校研修などで学級を空けることも多く、不安な面もありました。しかし、どの研修も新しい発見や驚き、そして感動に溢れていて大変有意義な時間を過ごすことができました。機関研修では、講義や協議、演習を通して、「すぐに実践したい！」と思うような素晴らしい指導法をたくさん教えていただきました。また、教師としての心構えも一から学び直すことができました。そして、共に学んだ同期の仲間たちは、何にも代え難い宝物です。共に悩み、励まし合い、学級経営や指導法を語り合った日々は忘れられない思い出となりました。校内研修では、先輩方の素晴らしい示範授業を参観させていただき、授業の構成や児童への発問、掲示物や教室環境に至るまで、どのクラスも先生方の愛情と個性が感じられるものばかりで大変勉強になりました。研究授業では、ご多用のところ、校長先生を始め、教頭先生、新井先生、山口先生、そして諸先生方にも参観していただき、丁寧な御指導と温かい励ましのお言葉をたくさんいただきました。1時間の授業の流れ、教材研究の大切さ、指導案の書き方などとても参考になりました。指導案を書くのに、何時間も時間を費やしました。でも、その時間をかけた分だけ、授業に対する思いが強くなり、授業を行って、失敗しても、反省することで「これは失敗した。今度はこうしよう」など次へのステップへとつながっていき、自分の力になっていくのが実感できました。

3 おわりに

最後に、こうして無事に1年終えることができるのもすべて総合教育センター、北部教育事務所や秩父市教育委員会、そして吉田小学校の先生方のおかげです。いつも笑顔で励ましてくださった校長先生、仕事の遅い私に付き合ってくれて夜遅くまで見守ってくださった教頭先生、いつも親身に相談にのっていただき、的確な指導をしてくださった新井先生、常に優しく子どもと私に接してくださった山口先生、もう1人の担任として共に歩んでくれた高野先生、温かく励まし続けてくださった吉田小学校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。初任者研修に関わってくくださったすべての先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。1年間大変お世話になりました。そして3年2組の子どもたち。彼らの可愛く輝く笑顔と思いやりにはいつもパワーをもらいました。22人一人ひとりが私の宝物です。

これからも、この初任者研修で学ばせていただいたことを胸に、吉田小学校と子どもたちの未来のため、日々研修に努めていきます。ありがとうございました。



初任者としての1年間を振り返って

秩父市立秩父第一中学校 教諭 越智啓太

私は、初任者としてこの1年間、授業や学級経営の中で様々な経験をさせていただきました。以下に、それらの中で経験をしたことについて述べます。

1 授業で経験したこと

私の教科は理科です。理科の授業の中で、生徒に理科に対する関心や、思考力を身に付けさせる目標を達成するために、様々な手法を学び、実践することができました。例えば、予想ボード（図1）という、生徒に思考、表現を身に付けさせるための教材や、生徒の考察を深めるために、実験結果をクラス全体で共有するための結果を記入できるホワイトボードの作成を行い、それを授業の中で活用しました。これらのボードを使用したことによって、班の中で活発に話し合いを行い、積極的に考察や、予想を行う姿というものを見ることができました。

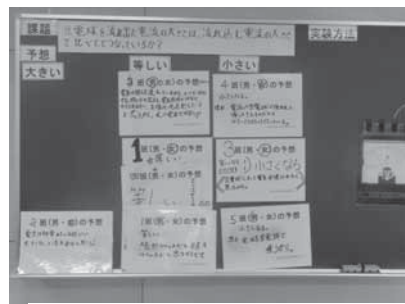


図1 予想ボード

授業では、なかなか思い通りにいかなかったことも確かです。1学期のころは、授業に姿勢が向かない生徒が何人かいました。私は現状を変えていくために自分自身を振り返り、生徒との信頼関係を築いていくことや、更に教材研究に力を入れるようにしました。生徒との信頼関係を築くために、授業後の自己評価カードで必ずコメントを返すということや、生徒1人1人を授業中に指名すること、生徒に活躍の場をできる限り設けること、また、後に詳しく述べますが、日頃の学校生活の中で生徒1人1人とコミュニケーションを図ることをできる限り行いました。2学期から現在に至るまで、授業に姿勢が向いている生徒が徐々に増えてきていることを実感することができています。

2 学級経営で学んだこと

私は今年、2学年の担任を持たせていただきました。最初は戸惑うことばかりであり、全く学級が成り立たず、学級経営の難しさを痛感しました。しかし、周りの先生のアドバイスや、助力もあり徐々に良い方向に向かっていったことも感じることもできました。学級経営を行う中で、私がとても大切に感じたことは「生徒との関係づくり」です。

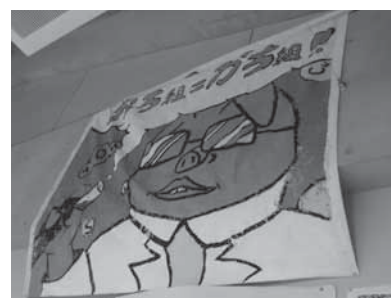


図2 行事で作製した学級旗

生徒との関係をしっかり作らなければ、反発し、こちらの言葉が染み渡らないということを実感しました。私は生徒との関係を築くために「生徒といる時間」や「会話」というものを大切にしました。昼休みや、授業前後の休み時間には、できる限り教室にいるようにし、生徒とのたわいのない会話や、教科に関する質問の返答や補足などを行いました。また、行事（図2）の際も生徒と一緒に活動ができる限り行うようにしました。

まだまだ私には課題が山積みです。それらの課題を解決するためにも、視野を広くし、生徒の実態をしっかりとつかむことや、周りの先生方の教育に対する姿勢を学んでいくことに努めていきたいと思っています。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立秩父第一中学校 教諭 相樂繭子

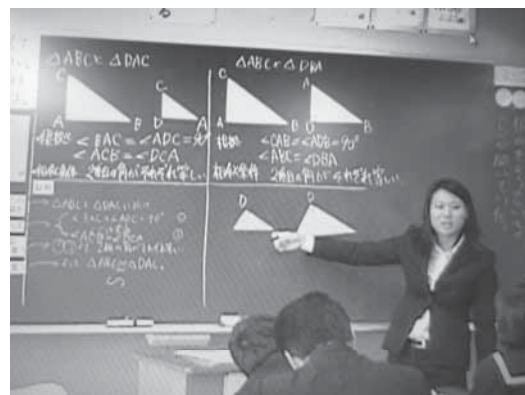
1 はじめに

「学校の先生になりたい。」教員を志してから17年目の春、わたしの夢はスタートした。生徒と過ごす毎日は想像以上に楽しく、あっという間だった。私の教員としての1年目は、日々成長していく生徒と共に学んだ年となった。

2 学びの日々

初任者としての1年はたくさんの研修の日々でもあった。初任者研修では、様々な立場の先生方から講義・演習・協議・体験など多様な形式でご教授いただき、研修が行われる度に初心に戻り、新たな気持ちで奮起することができた。学校では拠点校指導教員から毎週1対1で教員としての「いろは」を教わるとともに、教員生活を送る上での相談や数学についてのお話をさせていただいた。また、教科指導教員からは授業実践の指導をしていただき、指導のポイントや発問の仕方など細部にわたるご指導をいただいた。これらの研修で学んだことを実践できたこともあるが、これからの課題として残っているものも多い。数学の授業では「わかる」授業を目指したが、「わかる」授業をすることはとても難しく、せっかくポイントを教えていただいても、うまく実践できなかったり、生徒に分かりやすく伝えることができなかったりと課題ばかりが残った。

また、部活動や生徒指導でも生徒にうまく指導できないことが多く、その度にたくさんの先生方が助言してくださった。これからの実践で教わったことを1つでも多く生かし、生徒に還元していきたいと思う。



3 おわりに

初任者としての1年は本当にあっという間に過ぎていった。しかし、今までの人生で一番多くのことを学んだ1年だった。日々学ぶことは、自分のできないことに直面することの連続でもあった。上手いかずに立ち止まりそうになったとき、指導教員をはじめたくさんの先生方の温かい励ましやアドバイスが力となり、また笑って生徒の前に立つことができた。そして、笑い返してくれる生徒の笑顔がさらに力をくれた。生徒や先生方、これから出会う多くの人との絆と謙虚な心を大切にしながら「学び続ける教員」でいられるよう、これからも頑張っていきたい。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立秩父第二中学校 教諭 小島 直

いつの頃からか「先生」という存在に尊敬と憧れの気持ちを抱き、教師を目指すようになりました。そして4月、その憧れの存在である「先生」としての生活がスタートしました。辞令交付式では、これから始まる生活に対する希望と不安の入り混じった何ともいえない緊張感でいっぱいだったことを、昨日のこのように思い出します。

4月8日、1年生の学級担任として、小学校から目を輝かして入学してきた生徒を迎え入れました。生徒たちの希望に満ちた目はとてもまぶしく、教師としての責任を改めて自覚し、プレッシャーに押しつぶされそうな日でした。

学級担任として最初に頭を悩ませたのが、教室環境の整備でした。机の配置をどうしようか、教室掲示をどうしようか、収納はどうしようかと考えながら、人知れず他教室を見て回り、参考にさせてもらいました。生徒にとって居心地の良い教室にするために、これからも様々なアイデアを吸収し、自分なりに工夫していきたいと思います。

次に頭を悩ませたのは、生徒指導です。教室で起こる様々な問題に対し、うまく対処できず、落ち込むこともありました。しかし、生徒の笑顔と先輩の先生の温かい励ましやアドバイスのおかげで何とか乗り越えることができました。その中で、課題を解決していくには、教師と生徒との関わりだけでなく、広く全体を見渡し、クラスの中での生徒同士の関わりを大切にしていかなければならないということを学びました。今後の学級経営では、生徒のよりよい関係づくりのために、今以上に工夫していきたいと思います。



教科指導では、研究授業を通して、生徒の実態の把握と課題設定の重要性、板書とノート指導の在り方、授業内評価の必要性等について学びました。生徒にとって「わかる授業」を展開していくために、時間の限り先輩の先生に指導を仰ぎながら、教材研究を充実させ、生徒のために努力していきたいと思います。

この1年を振り返ってみると、反省の毎日ではありましたが、充実した1年で、あっという間に終わりを迎えようとしています。この1年を終えることができるのは、生徒の笑顔と保護者の協力、そして、温かく支えてくださった先輩の先生方のおかげだと思います。これからも感謝の気持ちと、常に学ぶ姿勢を忘れずに生徒の憧れる先生になれるよう日々努力を重ねていきたいと思っています。

初任者としての一年を振り返って

秩父市立秩父第二中学校 教諭 中田和希

1 学校生活について

去年まで学生として生活していた私にとって、生活環境とリズムががらりと変わったのが4月でした。一つ一つのことがすべて初めてで、新鮮さを感じながら緊張する毎日を送っていました。5月6月と過ごす中で、少しずつ、リズムにも人間関係にも慣れてきましたが、日々の忙しさに埋もれ、その後の数ヶ月も走るように過ぎ去っていきました。

そんな中で、明日もがんばろうと思えるのは、やはり生徒と過ごせる時間があったり、人と本気で向き合えるチャンスがあったりするからだと感じました。

2 授業について

まだまだ満足のいく授業は一つもありませんが、経験を重ねていく中で、少しずつ生徒の表情や学習環境などにも目が届くようになりました。それによって、次の單元ではああしよう、こうしよう、という新たな課題を見つけることもできるようになってきました。うまくいかないことの連続ですが、目の前の霧はだんだんと晴れてきて、目指すべきところは明確になってきています。この向上心を忘れずに、理想とする授業に向けて、これからも努力を積み重ねていきたいと思えます。

3 部活動について

私にとって、学校生活の中で生徒と触れあう楽しみな時間の一つが部活動です。私自身は野球を続けてきたのですが、サッカー部の顧問を受け持つことになりました。小学生の頃に少しだけ経験があるものの、いざ指導するとなると、難しい場面が多々ありました。それでも、生徒と走ったり、試合後の反省をしたりする中で、生徒と一緒に成長できていると感じることがあり、とてもやりがいを感じています。試合ではなかなか勝てないのですが、これからもっと生徒の技術を向上させたい、人間として成長させたいという気持ちは、変わらずにあるので、その気持ちを大事にしながら、全力で指導していきたいと思えます。

4 施設体験研修について

夏休みに、秩父市の初任者を対象とした施設体験研修に参加しました。普段はできないような経験を数多くすることができ、とても充実した一日となりました。

ジオパーク巡りでは、研修が終わった後に、今まで住んできた秩父市が、また違った形に見えるような感覚を味わうことができました。このように、生徒が見る景色を変えられるような授業ができるようにしたいと思えました。

老人ホームの施設体験では、日頃あまり関わることがない高齢者の方たちと話をする機会をもつことができました。価値観が広がり、心温まる研修となりました。

大滝げんきプラザでの研修では、小学生とふれあいました。目をキラキラさせて活動する姿を見て、こんな顔をさせられるように授業をしたいと強く感じました。また、ボランティアの大学生たちの活動する姿を見て、気の引き締まる思いをしました。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立尾田蒔中学校 教諭 粕谷和美

1 はじめに

秩父で初任者として新たな1歩を踏み出すことができ、公私ともに恵まれ、充実した1年だった。初任者研修を通し、教師としてのあり方、生徒が意欲的に取り組む授業作り、秩父の風土・文化等、多くのことを学ぶことができた。

2 教科指導について

生徒が主体的に取り組む授業作りを目指して取り組んできた。授業だけでなく家庭での実践力を培うため、「包丁に慣れよう」や「調理をしよう」、「食品表示を調べよう」といったチャレンジプリントを取り入れた。また、6つの食品群を覚えるために、食品群別のビンゴゲームなどを授業のはじめに定期的に行うことで、生徒が意欲的に楽しみながら授業に参加する様子が見られた。家庭科の授業では、地域の食材を取り入れる教材が多く、私にとっても秩父を知る良い機会になり、生徒から教わることも多く大変勉強になった。指導者の先生に授業を参観してもらいアドバイスをいただいたり、研修へ参加し新しいノウハウを得ることができたり、次年度に向け、学んできたことを授業に反映できるよう準備をしていきたい。



3 教員生活について

教科指導だけではなく、学級担任として学活や道徳、体育祭や文化祭などの行事へ向けた指導、部活動などたくさんの経験をさせていただき機会を与えていただいた。日々さまざまな課題に直面してきたが、周りの先生方の指導や行いをみることで1日1日が勉強になった。生徒の輪の中へ入り一緒になって活動することによって、生徒を理解できるようになり、良い関係を築くことができた。また、道徳教育研究推進モデル校の指定を受け、2年目となる本校は、学校全体で道徳の研修を行う機会が多く、道徳の授業経験のない私にとってとても勉強になっている。要領がつかめず仕事も遅く、失敗も多いが、たくさんの機会を与えていただき挑戦することができたことは本当に感謝の気持ちでいっぱいである。



4 1年を振り返って

出会いに恵まれた1年だった。右も左もわからない状態でスタートした4月だったが、ここまでくることができたのは、周りの先生方をはじめとして仲間や保護者、生徒などたくさんの方々を支えられてきたからこそであると感じている。初任者研修や日々の生活の中で学んできたことを活かして、研鑽に励んでいきたい。初任者研修の終了が教員としてのスタートだと考え、これからも日々学ぶ心を忘れず前進していきたい。

初任者としての1年を振り返って

秩父市立影森中学校 教諭 石井匡樹

1 はじめに

3月に大学を卒業し、4月より影森中学校の教員として教員生活をスタートさせるとともに、社会人としてのスタートを切った。学級担任、教科主任、授業、部活動の顧問など、全てが初めてのことだった。何もわからない私を時に厳しく、時に優しく指導して下さった多くの先生方のおかげで今日に至ることができた。

2 若手研修

本校では、校長、教頭、教務主任など多くの先生方が若手教員を対象に指導をして下さる機会が設けられていた。その研修で主に校長より、第一に社会人としての心構えに関する事、第二に教育とは何かの二点を指導して頂いた。

第一については、大人とは社会的責任の量で決まること。また、教師は厳しい目で社会から見られているということを感じなければならぬということである。教師はきちんとできて当たり前である。だからどのようなレベルを求められているのかを知らなければならぬ。

第二については、教育とは、流れる水に字を書くようにすぐ消えてしまうものだという事だ。やって見せること、させてみる事、ほめることを繰り返し行うことと、指導や指示したことは必ず見届けることが重要であることを学んだ。

3 初任者研修

週に一度拠点校指導員の先生に来校して頂き、授業の質の向上のための具体策や教育公務員としての在り方を学んだ。また研究授業では、多くの先生方が忙しい中時間をつくり私の至らない授業を見に来て下さった。さらに、教育研究所指導主事の新井章弘先生に来校して頂き、授業中の時間にメリハリをつけること、説明が必要な問題や課題にはそれ自体に不備があるということなどを指導して頂いた。

機関研修では、多くの同期の方々と出会うことができた。特に8月に行われた施設体験研修の最終日には、初任者同士の研究協議を行い頑張ったこと、うまくいったこと、悩んだこと、大変だったことなどを共有した。そこでは、自分ひとりが辛く苦しい思いをしているわけではないということを実感した。

4 おわりに

途中で何度もくじけそうになったが、私にとって縁もゆかりもないこの秩父市で教員として一年間を過ごすことができたのは、宮原校長、池田教頭をはじめとする影森中学校の教職員の方々や拠点校指導員の鶴田先生、そして山崎先生のおかげである。今後も学びの専門家として常に学ぶという姿勢を忘れずに日々精進していきたい。

